

どらりあんぐる菅生

http://isweb43.infoseek.co.jp/school/sugao_ky/ E-mail: csn@ha.bekkoame.ne.jp

子どもの権利を生かす

稗原小学校

「川崎市子どもの権利に関する週間」(11月19日～22日)に合わせ、「学校に行こう週間コミコミスクール(コミュニティー＆コミュニケーションスクール)」とし、全学年・全学級の日常の学校生活を公開。人権学習を中心とした授業が行われました。

- 1年生 「大切なからだ」
- 2年生 「おいもパーティー」
- 3年生 「わたしたちの命」
- 4年生 「障害走・なわとび・持久走」
- 5年生 「友だちっていいよね。君がいてうれしい」
- 6年生 「稻作りから精米まで」体験学習
- こだま級 「こだま級の卒業と進級を祝う会をしよう」リハーサル

保護者の感想から

- 男女の身体のつくりの違いや、成長の変化がわかりやすく説明されていた。
- 競技中に一輪車から落ちた友だちに、クラスメート数人がかけより肩をかけてあげようとする姿に感動した。(思いやり、ちゃんと育ってるね)
- 競技後の子どもたちの満足な顔が印象的。(頑張ったね！)

菅生小学校

- 一人ひとりを大事にするという意味で、名前を呼ぶときは「〇〇さん」としている。
- 出席簿や整列順は、男女混合で。
- 代表委員が「おはよう運動」として、各昇降口で声かけをしている。
- 毎年4年生の児童と保護者を対象に、「子どもワークショップ」と「子どもの権利についての学習会」を実施。
- 子ども権利週間のときには、11月19日に学校公開日をもち、230名くらいの人が訪れた。
- 教職員による人権尊重教育部会の設置。川崎市が求める人権教育を基に、子どもたちが楽しく意欲的に学校生活をおくれるように目標を定めている。部会は月に1回。部会の話し合いを受けて職員会議でも話し合いがもたれる。

—劇で観る世界の子どもたち—

人権尊重教育部の福井先生が企画した劇を、3年生の有志が11月25日の朝会で披露しました。劇では東南アジアなど世界各地に住む貧困層の子どもたちの現状を、日本の子どもたちの生活とクロスさせながら伝

発行: 菅生中学校区地域教育会議
編集: 広報委員会
当番校: 稗原小学校 TEL 976-4557
事務局: コミュニティサポートネット内
TEL 979-1303 FAX 979-1304

川崎市では子どもの権利条例を制定し、子どもたちの権利を保障しています。「子どもの権利」について学校現場ではどのような取り組みをしているのか聞いてみました。

菅生中学校

人権尊重教育の推進にあたり日ごろから学校生活やさまざまな学習活動を通して、一人ひとりの生徒がお互いを認め合う心の育成に努めています。

特に、「子どもの権利の日」の前後には、全校集会の場で校長先生から「互いを認め合うことの大切さ」についてのお話があったり、文化教室においては、地域の方を講師にお迎えして「子どもの権利」についてのワークショップを実施しました。

さらに、道徳や学活、総合的な学習の時間に子どもの権利学習として「わたしもあなたも輝いて」や「権利カード」等の資料を利用して授業を行っています。また社会科では、人権や権利についても授業に取り入れ、子どもたちの学びの場を広げています。

子どもたちの声(文化教室「子どもの権利って?」に参加)

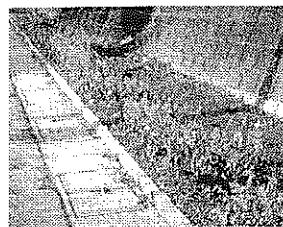
- 子どもにはたくさんの権利があるんだなと思いました。子どもにもプライバシーもあることを思ってくられない大人などもいるので守ってほしいと思いました。(1年女)
- 私たちも意見をだしました。例えば、女だから、男だからというのではなく、女も男もという考え方をしてほしい。女も男も(標準服の)スカートまたはズボンを選べるようにしてほしい。(2年女)
- 僕は親の大しさがわかりました。もし、子どもを大事にしない親のもとに生まれていたらと考えると嫌な感じがします。(3年男)

えました。バナナ農場で労働している子どもやゴミの山で生活している子ども、ストリートチルドレンの問題などを浮き彫りにした短い劇。自分たちが当たり前のように生活していることは「子どもの権利」が守られていることであり、それが奪われている子どもが世界中にいることを忘れないようにしよう、という呼びかけで幕を閉じました。「学校へ通える幸せに気づこう」というメッセージが感じられました。劇の後、6年生の計画委員から、最近、学校で乱暴な言葉や行為で嫌な思いをしている人がいることをクラスで話してほしいこと、おはよう運動でいさつをきちんとしてようという提案がありました。

台本は福井先生が考えましたが、ある児童のお父さんが、フィリピンのスマーリー・マウンテンの資料をインターネットで集めてくれました。「今回の劇がどれだけ子どもたちの心に残ったかはわからないし、忘れてしまうかもしれないけれど、やることが大事」と先生。

参加した3年生の子どもたちにとっては貴重な体験だったのでは。劇の中でのできごとは遠い世界のことのようですが、このような活動を通じて子どもたちが自分や他人を大事にできる人に育ってくれたらと思います。

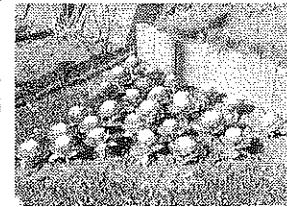
地域でこんな活動 こうい人々



花でまちを飾る

菅生のまちを花でいっぱいにしようと、昨年4月、菅生・稗原の8自治会が合同発起人となつて、「花で町を飾る会」を立ち上げました。会員は現在26人で、植物をこよなく愛し、種から苗を育ててこれまで地域に美しい花々を咲かせてきた会長の小路靖子さん（菅生3丁目）を中心に、うるおいのある美しいまちづくりをめざして活動中です。乏しい資金の中でも会員のみなさんの「まちをきれいにしたい」という気持ちとボランティア精神のお蔭で、このたび「たこ公園」前の歩道に素晴らしい花壇ができました。石ころだらけの土を耕し、造園屋さんに寄

付してもらったトラック2台分の土を入れ、パンジー、サルビア、葉ほたん、だいこんの花などを植えました。美しくかわいらしい花たちは通る人々の目を楽しませ、気持ちをなごませてくれます。花壇はこの他にユニクロ裏の平瀬川上流や里公園のゲートボール場横にも。花壇の基礎は、「土作りと草取り」と小路さんは花壇づくりに余念がありません。この会を中心には花壇づくりの輪がどんどん広がって、菅生の地がすてきな「花のまち」になるのが楽しみです。



一花で町を飾る会

菅生の地域には、自主的に活動している人々が数多くいます。その活動の目的・やり方などはさまざまですが、一つだけ共通していることは「楽しんでいる」ということ。地域の中で楽しめることを見つけ、それであわりの人にも振りまいてくれるような人々やグループを今回も紹介します。

昔の様子を今に伝えたい 一鶴飼 雄さん

「昔の平を伝えたい」。今年87歳になる鶴飼雄（うかいゆう）さんは、3年前、「ふるさとを想う—平瀬川にそった村から—」を自費出版、区内の小学校や図書館に寄贈しました。これは近隣の人々の64編の寄稿により構成されていますが、出版後も平瀬川周辺の昔の様子をもっと書き残したいという声が多く、昨年7月に続編を出版しました。こちらは地域も広がり、平瀬川にそった多摩区から高津区までの人々からなんと82編も寄せられ、反響の大きさがうかがえます。

宮前区は10年前まではのどかな田園風景が広がる地域でした。鶴飼さんは多摩区長尾に生まれ、昭和30年頃に平へ移り住み、地元の小学校教員をしながら宅

地化に伴う変貌を見てきました。この地に思い出を持つ多くの人々の記憶を書き残しておきたいという気持ちが、鶴飼さんを動かしました。

「人が好き。だから人が喜んでくれることはなんでもやりたい」と言う鶴飼さん。さまざまな地域ボランティアや、茶道など趣味の同好会をつくつたりと、毎日がエネルギー。私たちに生き方を示してくれる鶴飼さん、これからもお元気で活動していただきたいと思わずにはいられません。



鶴飼 雄さん

鶴飼さんから『続ふるさとを想う—平瀬川にそった村から—』を先着2名の方にプレゼント！
ご希望の方は菅生中学校区地域教育会議事務局（TEL 979-1303）まで

サッカー青年たち

—S.O.B. サッカーチーム—

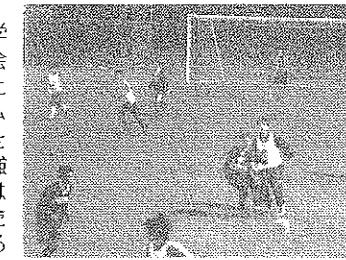
川崎市では地域の方々のスポーツやレクリエーション活動の場として、学校の施設を開放しています。菅生中学校の校庭でも、現在、14ものさまざまなサッカーチームが活動しています。そのなかでも最も若いグループであり、菅生で育った青年たちのチーム、菅生サッカークラブのOB会S.O.B.（菅生OB）サッカーチーム（代表伊野瀬裕介さん21歳）にスポットをあててみました。

12月のある寒い日、3チームが集まって練習試合をやるというので取材にでかけました。S.O.B.は16歳から22歳の青少年が集まるサッカーの愛好会です。地域の小学生チームである菅生サッカーライフのOBは、これまでにも学年ごとにいくつかのOBチームを結成していますが、S.O.B.は1つの学年に限定しないところが今までと少し違っています。菅生サッカーライフのコーチ金子彰利さん（22歳）が、いくつかの学年のOBを集めてチームをつくりました。会員は15～16名、会則もなければ会費もないとのこと。当日のグランド使用料をみんなで出し合うのが唯一のぎり。出欠を問われることもなく、「今度やるゾ～！」と声がかかり、その日やりたい者が集まります。

この日は、部活を卒業した高校3

年生も大勢集まっていました。中学3年のときに菅生中で唯一関東大会に出場したチームの久々の再結成というところ。練習試合の相手チームは「鷺沼パパス」（この日は若いのを結構集めていた）とアマチュア最強の「少年リーダー会」。S.O.B.は3年間別々の高校でプレイしていたとは思えないほど息の合ったところを見せてくれました。高2や20代の青年も違和感なく溶け合っています。こうして一緒にプレイできるのもあとわずか。4月からは就職して会社のチームに入る者、遠地の大学チームに入る者、中にはこのS.O.B.に残る者もいます。この日は参加できませんでしたが、中学卒業後プレイするチームに恵まれず、ここでしかエネルギーを発散できない若者たちもいます。サッカーをしているときの彼らは本当に楽しそうで、思わず、記者も寒さに震えながらも最後まで見入ってしまいました。

この年齢の若者



たちは、きっちり規則を決められるとアシルギーが出てしまいがちですが、いつ来てもいい、強制されないからかえって来やすいのかも。そういう仕方で若者たちに行き場を提供している世話を人の金子さんもまた、菅生サッカーのOB。彼らの気持ちをよく知っています。

代表の伊野瀬さんは久しぶりに好きなサッカーに戻って来た一人。「今日はすぐ寝られるゾ。最近トレーニングとかしてるんですけどね。やっぱりやり始めたらもうとっくにプレイしたい。でもやっぱ年だなあ！」いやいや全然若い若い、頑張って。若者たちを大人がケアするのではなく、若者同士でサポートし合う。これも地域教育のひとつのカタチ。とにかく彼らの笑顔はさわやか。最後に集まって話していました。「安いTシャツ買ってプリントしたら？」「やっぱ青がいいな、チームカラー」「試合のときそろってないとカッコつかないよ」また見に行くのが楽しみになりました。

「かわさきチャイルドライン」スタート

○子どもたちはともに未来を生きていくたいせつなパートナー
○子どもを信じ、自分らしく自信をもって生きることを応援したい
○子どもの話に耳を傾け、気持ちを受けとめ共に感じたい
そんなことをえている市民が集まつてつくった団体です。
昨年11月20日の「かわさき子どもの権利の日」に実施しました。
次回は5月5日の子どもの日に予定しています。

チャイルドラインって？

子どもがかける子どもの専用電話です。どんなことでもOK。名前は言わなくていいし、秘密は守られます。

いつかけられるの？

2003年5月5日（子どもの日）に予定しています。
電話番号、時間など詳しいことはこれから決めます。詳細が決まり次第お知らせします。

受け手ボランティア養成講座のご案内

期間 2月16日（日）～3月23日（日） 全12回
会場 地域福祉施設ちどり他（溝の口）
対象 20歳以上 45歳までの男女30名
受講料 10,000円（12回分）
申込 「子ども時代に影響を受けた出来事または人物」をテーマとする作文（1000～1200字）と住所・氏名・年齢・職業
TEL・FAXをメモし、郵送 1月31日（金）必着
〒215-0011 川崎市麻生区百合丘3-13-127-304
かわさきチャイルドライン宛
問合せ 954-3648（岡崎） 854-2965（錦織）

お知らせコーナー



■菅生小学校 TEL977-0953

- ☆クリーン大作戦 1/17 (金)・2/18 (火)
- ☆書き初め展 1/23 (木)～29 (水)
- ☆すがお音楽会 2/25 (火)
- ☆6年生との思い出会 3/11 (水) 2校時
- ☆卒業生を送る式(第36回卒業式) 3/19 (水)
- ☆修了式 3/25 (火)

■稗原小学校 TEL976-4557

- ☆PTA 成人家庭教育学級講演会 1/15 (水) 13:00～
- ☆講演会 成田真由美さん 2/10 (月)
- ☆6年生を送る集い(予定) 3/12 (水)
- ☆お別れの会・第17回卒業式 3/19 (水)
- ☆修了式 3/25 (火)

■菅生中学校 TEL 977-8787

- ☆校内書き初め展 1/9 (木)～31 (金)
- ☆授業公開週間 1/20 (月)～24 (金)
- ☆小学生との交流会(菅生・稗原小6年生来校) 2/19 (水)
- ☆PTA 成人委員会主催講演会 2/21 (金) 13:30～ 体育館
- ☆3年生を送る会 3/4 (火) 13:30～ 体育館
- ☆第28回卒業式 3/11 (火)
- ☆修了式 3/25 (火)

■蔵敷こども文化センター TEL977-2577

☆映画&だがし屋 2/12 (水)・3/12 (水)

14:30～16:30

☆けん玉検定 毎週金曜 14:30～16:30

■菅生こども文化センター TEL976-0444

☆読み聞かせ(絵本・紙芝居) 1/22 (水)

☆子どもむけ落語 1/25 (土) 14:00～

桂米多朗

☆ひこばえ(3月に予定)

■宮前市民館菅生分館 TEL977-4781

☆成人学校「黒澤明の世界」申込み受付中

1/28～3/25 毎週火曜 全8回 14:00～16:00

定員30名 受講料¥4000

講師 西村雄一郎(映画評論家)

熊田雅彦(制作スタッフ)

生涯学習委員会シンポジウム予告

「学習意欲を高めるために(仮題)」

日時 2月中旬の予定

会場 菅生分館

REPORT 再生委員会

21世紀にふさわしい地域教育会議をめざし、活動や仕組みを再生していくと、2年前に始まった「再生委員会」は、1月28日が最終回となります。以後、運営委員会にひきつぎ、規約案を次年度の総会に提出します。再生委員会を立ち上げた工藤文比古前議長に原稿を寄せてもらいました。

再生委員会をふり返って

菅生中学校区地域教育会議前議長 工藤文比古

地域教育会議という公的組織で公立学校が抱える根幹の問題点について、正面から徹底的に議論ができるなら、教育改革も大きく進むかもしれないと考えたのが、1999年度の議長に就いたときでした。

これまで、PTA、PTA OB会、自治会などさまざまな関係グループが長い歴史をかけて町ぐるみ、人ぐるみで公立学校を支えてきました。それらはあくまでも、教育委員会の学校行政指導部分と現状の学校運営を円滑にするため、保護者、住民の協力とは完全に切り離された関係でしかなかった気がします。例えば教員の質の不適性、授業の教え方または1クラスの生徒数の問題などからくる弊害は、教育委員会または学校判断で処理され、保護者や住民による議論への参加もないまま結果報告を受けるだけの存在でした。

20回、2年以上にあよぶ再生委員会では、地域教育会議が学校にどこまで立ち入ることができるかが大きな論点になり、さまざまな意見をぶつけっていく中で、「地域の中の学校は地域の共有財産である」という認識を持つことで、地域教育会議は家庭、地域の教育と学校運営、学校の質(ハード、ソフトも含める)に対してしっかりと意見を言い反映させ、理想に近い教育環境にする責任があることを確認しました。

2003年度から新しい地域教育会議に生まれ変わる

ために、現在大幅な規約改正をしているさなかです。

その精神は新規約の前文として明確に示されることになりました。前文(案)は下記のとおりです。

教育においては、市民自らが、未来のビジョンを描き計画を立て実行していく活力が強く求められます。

子どもの教育では家庭・地域・学校などの教育環境があり、大人の教育では家庭・社会などの教育環境が考えられます。それらの環境を力強く豊かにしていくために、親権者である親または保護者・地域住民・教職員など大人である私たち一人ひとりが、これらすべての教育環境と向き合い、創造し、次の世代を受け継ぐ子どもたちに力強い未来の展望を示すとともに、その実現方法をも提示していく大きな義務と責任があると考えます。

教育改革は「大人改革」です。

菅生中学校区地域教育会議は、この前文の精神をはっきりとしたカタチに表し、行動し、新しい教育環境を創りだし、子どもたちに未来の展望を示す大きなチャンスを迎えています。